科目名	人間と環境　　Introduction to Environmental Studies						
科目担当者	村岡 嗣文　　MURAOKA Tsugufumi						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［総合教育科目　人間形成］ 経営学部・経営学科［総合教育科目　人間形成］					ディプロマポリシーとの関連	(1)(2)
授業の概要	人間を取り巻く環境が人間活動を大きく変えた歴史、逆に人間活動が人間を取り巻く環境を著しく変化させ、人間の活動に様々な問題を引き起こした歴史（公害等）、および現在起きている問題（地球環境問題）を概説する。それらを通して、水の重要性や水の確保に「森」が重要なはたらきをしていることについて考える。更に、人間を取り巻く環境（特に地球環境）の保全を図りつつ、「持続可能な発展」を構築する社会の実現についても考える。						
授業の到達目標	①　環境の変化には非人為的なものもあるが、人間活動によるものが多いことを理解できる。 ②　環境の保全には、森林の保全が非常に重要であることを理解できる。 ③　国内で起きた四大公害を中心とした公害とそれに伴う法規制の概略が説明できる。 ④　地球環境問題とはどのようなもので、その原因が何であるかを説明できる。 ⑤　環境に大きな負荷を与えず、持続可能な社会を構築するために、我々が何をなすべきを考え、実践できるようになる。						
授業計画・内容	1	人間を取り巻く環境の様々な問題					
	2	地球の気候と気候変動要因					
	3	古代文明の盛衰と森林の役割					
	4	地中海文明の変遷と森林環境					
	5	森の荒廃がもたらしたものと森林の復活（たたら製鉄（出雲）と襟裳岬）					
	6	日本の森の荒廃と公害（足尾銅山鉱毒事件）					
	7	鉱工業の発展と四大公害					
	8	宮崎の公害（土呂久公害）					
	9	レイチェルカーソンの告発とアメリカの公害					
	10	地球環境問題１　水の汚染					
	11	地球環境問題２　大気汚染					
	12	地球環境問題３　地球温暖化のメカニズム					
	13	地球環境問題４　地球温暖化と巨大災害					
	14	地球環境問題５　食生活の現代化と地下水枯渇					
	15	地球環境問題６　食糧不足と食品ロス					
授業外学修 (事前学修)	次回の授業の予習課題を調べてレポートを作成し、次回授業時に提出する。 （毎週 2 時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	授業内容を復習し、以前の授業内容との関連を含めて要点を整理する。 （毎週 2 時間程度）						
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法			評価比率		到達目標との対応	
	課題レポート 定期試験			40% 60%		①②③④⑤ ①②③④⑤	
	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	必要に応じて授業内容についての資料を配布する。						
参考文献	地球環境がわかる（西岡秀三　他著、技術評論社） 文系のための環境科学入門（藤倉良　他著、有斐閣）						
その他	地球環境問題は現在進行中であるため、日常的に新聞やテレビ等に注意し、常に関心をもって学習すること。						